

2023年3月31日
DealWatch 編集部

リフィニティブ DealWatch、2022 年度の「DEALWATCH AWARDS」を発表

総合部門の発行体に「野村総合研究所」

引受ハウスに「野村證券」を選定

リフィニティブの「DealWatch」は、2022 年度に国内資本市場において債券や株式を発行した優秀な発行体、海外でオファリングを行った本邦発行体および案件を運営した引受証券会社を称える賞「DEALWATCH AWARDS 2022(ディールウォッチ・アワード 2022)」を発表しました。

DEALWATCH AWARDS は、日本関連の資本市場の育成・拡大に資することを目的に 1995 年に設置されました。「本邦市場が世界の主要市場としてさらに発展していく」という観点から、アワードは発行市場における適正なプライシング、流通市場に移行した後の価格形成、資本市場の発展への貢献や創意工夫などを考慮し選定されています。

2022 年度の DEALWATCH AWARDS は、「総合」「社債」「地方債」「クロスボーダー債」「サステナブル・ファイナンス」「株式」の計 6 部門で構成されています。総合部門では発行体に「野村総合研究所」、引受ハウスには「野村證券」がそれぞれ選定されました。

賞の選考方法は、まず主幹事実績やシンジケート団参加の実績がある引受証券会社や機関投資家にアンケートを依頼し、該当会計年度の案件から各部門の受賞候補を推薦して頂いています。2006 年度からは、希望する証券会社からの自薦を受け、DealWatch 編集部が、選定された候補案件や候補者を DealWatch Awards 判断基準にのっとり、さらに吟味・選考した結果、最終的に受賞案件、受賞者を決定しております。

2022 年度の DEALWATCH AWARDS 受賞一覧は添付資料をご覧ください。

DealWatch について

DealWatch は日本の企業および地方公共団体、非日系発行体の資金調達活動をリアルタイムにレポートする日本語のスクリーンニュースサービスです。その速報性、正確性、専門性の高さには定評があり、信頼できる資本市場情報として、市場関係者から支持を得ています。主幹事・引受等のリーグテーブルは、客観的かつ公平な指標として、発行体の主幹事選定や引受業者のマーケティング活動において幅広く活用されています。

リフィニティブについて

LSEG(ロンドン証券取引所グループ)傘下の Refinitiv(リフィニティブ)は、金融市場のデータとインフラストラクチャの提供で世界をリードしています。リフィニティブは、190 カ国にわたって 4 万以上の企業や 40 万を超えるお客様にサービスを提供しながら、世界中の金融市場に関わる人々を支援しています。また、重要な投資や取引、リスク判断をお客様に自信をもって行っていくための情報やインサイト、テクノロジーを取り揃えています。独自のオープン・プラットフォームと業界をけん引するデータおよび専門的な知識を組み合わせることで皆様に取り組みと選択肢を提供し、お客様とビジネス・パートナーの皆様のパフォーマンス、革新、成長を促進してまいります。 <https://www.refinitiv.com/ja>

以上

DealWatch に関する問い合わせ先:

鈴木 佳穂

DealWatch 編集部

電話番号: 080-7160-2185

DEALWATCH AWARDS 2022 受賞一覧**総合部門****<Issuer of the Year>****野村総合研究所**

不安定な市場環境下においても安定感ある案件運営で両市場を積極活用。株式市場では本年度初の大型売出で売主の意向に合致したスキームを導入、成長戦略を示して株主層の拡大につなげたほか、債券市場では投資家との入念な対話で3年限同時の大型起債を実現した。

<House of the Year>**野村証券**

極めて不透明な市場環境の中で、資本市場の再構築に向け尽力した。状況を精緻に分析してオフリングの最適解を見いだすとともに慎重かつ戦略的に案件運営。機動的な執行を可能にする制度変更への弛まぬ働きかけと潮流を捉えた提案活動でマーケットの発展に貢献した。

社債部門**<Bond Issuer of the Year>****横浜市**

同じ月の先行案件よりもワイドなスプレッドで条件決定。月の最初に決まった水準を月内は踏襲するのが当たり前だった新発地方債市場で、環境に合わせて水準を再設定して市場のあり方に一石を投じた。

<Bond House of the Year>**みずほ証券**

リーゲータブルでブックランナー、主幹事共に圧倒的な首位。銀行系を除く多くのハイブリッド債案件で主幹事に名を連ねたほか、新顔の調達を支援するなど困難な状況でも発行体の資金調達の多様化を下支えした。

<Bond of the Year>**第1回東北電力債 (1330億円、35年NC5、劣後債)**

みずほ証券／野村証券／大和証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券

第2回東北電力債 (260億円、37年NC7、劣後債)

みずほ証券／野村証券／大和証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券

第3回東北電力債 (820億円、40年NC10、劣後債)

みずほ証券／野村証券／大和証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券

第4回東北電力債 (390億円、45年NC15、劣後債)

みずほ証券／野村証券／大和証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券

クレジットリスクの高い債券の発行が難しかった本年度の市場で半年ぶりに本格的に供給されたハイブリッド債。旺盛な投資家需要を取り込み、同債としては本年度最大の発行額を調達して、市場のモメンタム改善の役割を果たした。

<Debut Debt Deal of the Year>**第1回USEN-NEXT HOLDINGS債 (100億円、5年)**

大和証券

社債市場にデビューする発行体の中で、動画配信サービスを主力とする珍しい事業を展開。BBB+と相対的に低い格付けで、厳しい市場環境にもかかわらず、知名度の高さや好調な業績が評価されて投資家から旺盛な需要を集めた。

<Innovative Debt Deal of the Year>**愛知県令和4年度第17回公募公債 (140億円、10年)**

大和証券／東海東京証券／野村証券

10年ゾーンの国債イールドカーブの歪みが拡大した局面で、2月の地方債第一陣として登場。「償還月差」の考え方や算出方法が焦点となる中で、同債に携わる関係者が苦心の末に償還月差をゼロに決めた異例の案件となった。

地方債部門**<Local Government Bond House of the Year>**

野村証券

地方債で多くの案件に関与し、リーグテーブルで群を抜く成績を残した。特に警戒感が高まる10年地方債では入念なマーケティングに基づいて新たな居所を形成。需給を引き締めるなど市場の立て直しに貢献した。

<Local Government Bond of the Year>**群馬県第26回公募公債 (130億円、10年)**

大和証券／みずほ証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券

国債金利の急上昇、大幅な金利変動から地方債の需給が急速に軟化し、流通スプレッドも拡大する状況の中で、最初に対応を迫られた7月の群馬県10年債。市場環境に即した適正なスプレッドや需給の均衡点を探し当て、後続の道筋をつけた。

クロスボーダー債部門**<Cross-border Bond House of the Year>**

みずほ証券

クロスボーダー円債の引受額で他社を圧倒。大型案件への関与率も高く、円債市場をけん引するとともに、円滑な調達を後押しした。本邦事業会社による外債でも初回債の呼び込みに尽力して、投資家に新たな投資機会を提供した。

<Offshore Bond of the Year>**楽天グループドル債 (5 億ドル、2 年)**

モルガン・スタンレー／ゴールドマン・サックス

投機的格付けの銘柄ながら約 700 億円をドルで調達。2 カ月後には約 600 億円相当のドル債を追加で発行した。格付けが高くない発行体でも外債を使った丁寧な起債運営により大型調達が可能となることを示した。

<Cross-border Yen Bond of the Year>**サーモフィッシャーサイエンティフィック円債 (223 億円、3 年)**

シティグループ・グローバル・マーケット／米国みずほ証券／MUFG セキュリティーズ EMEA／

SMBC 日興セキュリティーズ・アメリカ

サーモフィッシャーサイエンティフィック円債 (289 億円、5 年)

シティグループ・グローバル・マーケット／米国みずほ証券／MUFG セキュリティーズ EMEA／

SMBC 日興セキュリティーズ・アメリカ

サーモフィッシャーサイエンティフィック円債 (47 億円、7 年)

シティグループ・グローバル・マーケット／米国みずほ証券／MUFG セキュリティーズ EMEA／

SMBC 日興セキュリティーズ・アメリカ

サーモフィッシャーサイエンティフィック円債 (63 億円、10 年)

シティグループ・グローバル・マーケット／米国みずほ証券／MUFG セキュリティーズ EMEA／

SMBC 日興セキュリティーズ・アメリカ

サーモフィッシャーサイエンティフィック円債 (146 億円、20 年)

シティグループ・グローバル・マーケット／米国みずほ証券／MUFG セキュリティーズ EMEA／

SMBC 日興セキュリティーズ・アメリカ

サーモフィッシャーサイエンティフィック円債 (333 億円、30 年)

シティグループ・グローバル・マーケット／米国みずほ証券／MUFG セキュリティーズ EMEA／

SMBC 日興セキュリティーズ・アメリカ

世界的に金融市場の先行き不透明感から海外の製造業による円債の調達が限られる年だったが、日本で一定規模の事業を展開する発行体は、本邦市場を重視し、資産に合わせる形で円を調達。同市場の重要性を示した。

サステナブル・ファイナンス部門**<Sustainable Finance Issuer of the Year>****東京都**

自治体最上位発行体として、ESG 債での調達を率先して行い、存在感を示した。2 月にはソーシャルボンドで初めてプレミアムを創出。トラックレコードによる信頼と国内外への情報発信強化で大手投資家からも賛同が得られたことで、超過需要を集めた。

<Sustainable Finance House of the Year>**みずほ証券**

ロシアによるウクライナ侵攻以後、脱炭素の世界的潮流が混迷する中で日本のトランジションボンド案件すべてに主幹事として参入するなど推進力であり続けた。国内の社会貢献債引受実績でも存在感を示した。

株式部門**<Equity Issuer of the Year>****ソシオネクスト**

半導体市場の減速懸念があり、不安定な市場環境の中で登場。独自のビジネスモデルの成長性を投資家に丁寧に説明、割安感のある想定価格の設定や投資表明の獲得など緻密なマーケティングにより上場後の株価も堅調に推移、本年度を代表する案件となった。

<Equity House of the Year>**野村証券**

リーゲテーブルで圧倒的なシェアを獲得してトップを堅持。世界の金融市場が停滞する難易度の高い状況で、本邦大型案件をほぼ全て主導的な立場で関与した。IPO プロセスの見直し議論においても、リーダーシップが光った。

<Equity Deal of the Year>**JMDC**

[払込日 09/20] みずほインターナショナル／野村インターナショナル／大和証券キャピタル・マーケット／ヨーロッパ／英国 SMBC 日興キャピタル・マーケット

年度初め以降、不透明な市場環境によりサイズ感のある公募案件が殆ど登場しない中で、第三者割当含めて 300 億円超を M&A 資金として果敢に調達。案件運営では市場と丁寧に向き合う姿勢を貫き、医療データ領域での競争力に期待する投資家の札を集めた。

<IPO of the Year>**スカイマーク**

[払込日 12/13] モルガン・スタンレー・インターナショナル／大和証券／BofA 証券

航空業界への見立てが千変万化する市場環境の中、投資家との丁寧な対話で適正なバリュエーション目線を形成。著名投資家からの購入意向を獲得するなどして、本年度唯一の公募調達額 100 億円超の大型上場を果たした。

<Equity-linked Product of the Year>**サイバーエージェント 2029 年満期ユーロ CB (400 億円、7 年)**

大和証券キャピタル・マーケットズヨーロッパ

投資家が慎重姿勢を強める環境下で、タイミングを捉えて 7 カ月ぶりとなる本邦発行体による CB 起債を敢行。価格感応度は色濃く出たが認知度の高さとサイズ感から着々と需要を創出し、W 杯の開催が迫る中で事業拡大に向けた資金調達を実現した。

<J-REIT Deal of the Year>**GLP 投資法人**

[払込日 10/21] 野村証券／みずほ証券／SMBC 日興証券／モルガン・スタンレー・インターナショナル

市場環境の悪化により大型オフリングが途絶えていた J-REIT 市場で、22 年度最大となる 321 億円の資金調達を敢行。物流施設の過剰供給や EC 需要の減退が懸念されている中、分配金の成長やパイプラインの見通しで投資家支持を確保した。

<Innovative Equity Deal of the Year>**ケネディクス G 資産裏付型セキュリティトークン**

[払込日 08/18] 大和証券

不動産裏付けのトークン化有価証券を国内最大の約 66 億円発行し、国内トークン化有価証券の一つの方向性を確立。ボラティルな市場環境の下、比較的安定利回りが見込める商品として投資家の需要を捉えて認知を広げた。

以上